

登録有形文化財 ～江原本家より全8棟が登録されました～

上毛倉庫株式会社創立から130周年を迎えた2025年、江原本家の建築物 計8棟が国の登録有形文化財として登録されました。

令和7年（2025年）3月13日登録 Google map : [〒371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山 1825](#)

江原本家清芳山荘（旧木村清四郎邸） 登録番号 10-0353

江原本家奥庫(旧朝日町奥庫) 登録番号 10-0354

江原本家質庫（旧朝日町質庫） 登録番号 10-0355

江原本家大庫（旧朝日町醤油醸造蔵） 登録番号 10-0356

令和7年（2025年）8月6日登録 Google map : [〒371-0024 群馬県前橋市表町 2丁目 25-17](#)

江原本家上毛倉庫一号棟 登録番号 10-0363

江原本家上毛倉庫二号煉瓦棟 登録番号 10-0364

江原本家上毛倉庫三号煉瓦棟 登録番号 10-0365

江原本家上毛倉庫七号棟 登録番号 10-0366

《ご挨拶》

この度、所有物件8棟が国の登録有形文化財に登録されたことに大きな喜びを感じるとともに、これからも長くこれらの建物が残されていくための意思表示ができたことに安堵しています。また同時に、責任も感じています。登録にあたりご尽力いただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

古くから続く家業を継いだ際に先代から託された清芳山荘。当初は東京都港区芝（現在の六本木七丁目）に木村家により建てられ、江原家が譲り受けたのち杉並区和田に移築。亡き父は、前橋で高校卒業まで過ごし東京の大学へ進学、当時杉並区和田にあったこの清芳山荘から通学したそうです。

昭和の終わりごろその土地を手放すことになった際、楽しい思い出の詰まった古き良きこの建物を取り壊すことに心が痛み、大切に赤城山に再移築しました。父が亡くなってからはあまり利用されることなく、山のいきものや風雪に傷つけられることもありましたが、幸いなことに古民家に魅力を感じてくださる方々による改修工事を経て、奥庫（おくぐら）、質庫（しちぐら）とともに、どなた様にも泊まれる宿として生まれ変わりました（<https://loof-inn.com/>）。先人たちの技術力、合理的かつ奥深い思想に裏打ちされた建築様式、木材の素晴らしさ等々、日本建築の魅力を感じていただければ幸いです。

一方、JR前橋駅前北口に位置する上毛倉庫株式会社倉庫群は、明治期～昭和期の製糸業の名残を留めながら、現在もすべて現役倉庫として稼働し、倉庫としてお客様の大切な荷物をお預かりするという建築当初からの任務を果たし続けています。赤煉瓦倉庫2棟に使用されている煉瓦は、渋沢栄一翁の興した「日本煉瓦製造株式会社工場」製で、東京駅丸の内駅舎、東京大学、碓氷第三橋梁（めがね橋）にも使われている煉瓦です。味わいのある赤色の煉瓦倉庫は、背後にそびえる赤城山・前橋駅から

北に延びるケヤキ並木とともに、前橋の心象風景として多くの方々に愛されていると感じます。私もまた、地元の荒々しいほどの自然と、おおらかな存在感の赤煉瓦倉庫の対比に愛着と郷愁を感じる一人です。普段は現役倉庫として稼働しておりますが、業務がお休みの週末にはイベント会場として敷地を開放し、倉庫群の雰囲気親子に親しんでいただく取り組みを続けています。そういった活動を通じて、多くの皆様に前橋への愛着やちょっとした誇りを持っていただければとても幸せに思います。

過去を振り返れば、上毛倉庫には佐久間町（現：若宮町）営業所があり、そこにも赤煉瓦倉庫が一棟ありました。運営上の変更を迫られた際には、亡き父が何度も行政に掛け合って取り壊しを回避しようとしたが理解を得られず、平成15年、やむなく取り壊しとなってしまいました。当時の父の悔しそうな、寂しそうな表情を今でも覚えており、駅前の倉庫群はなんとか残していきたいとの願いにつながりました。

時代が変わり世の中が変化し続けても、可能な限りこれらの建物を歴史遺産として、また、前橋というまちの個性を彩る一要素として残していければと願っています。あたたかく見守っていただければ幸いです。

江原本家 当主 江原 有香

[江原本家清芳山荘、大庫、質庫、奥庫 について詳細はこちらから](#)

[江原本家 上毛倉庫の三号煉瓦棟、二号煉瓦棟、七号棟、一号棟 について詳細はこちらから](#)